

GA333

国際社会演習 — トランスナショナル・ヒストリー研究 —

月野 楓子

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学部名である「国際文化」と、演習のサブタイトルである「トランスナショナル・ヒストリー」から、私たちはどのような視座・視点を獲得することができるだろうか。両者について学び、それらを手掛かりにして「当たり前」とされている国や文化の枠組みを問い直し、現在とつながる様々な事象及び問題について、文化・社会・歴史などの関係性の中から考える方法を見出す。

【到達目標】

- ・文献を読み、内容を理解し、自分なりの解釈や批判ができるようになる。
- ・関心のあるテーマを見つけ、それに関する文献や史・資料を分析できるようにする。
- ・関心のあるテーマから出発し、そのテーマと他の事象についての関係性を考え、自らの意見を述べられるようになる。

【授業の進め方と方法】

1. 文献に関する発表（レジュメを作成し、文献の要旨を報告し、疑問点・問題点を提起する）
2. グループでの研究発表（文献、新聞記事のほか、映画や音楽など関心のある対象からトランスナショナルな問題を取り上げ、内容の分析を行うとともに、ディスカッションポイントを挙げ、討議する）
3. 個人研究の発表（個人研究の構想・概要・進捗状況に関する発表を行う。国際文化情報学会への参加に向けた準備を行う）

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第1回	春学期イントロダクション	授業の概要説明、文献の選定、分担者・グループの決定
第2回	文献1の発表と議論	文献1について、分担者による発表と全体での議論
第3回	文献2の発表と議論	文献2について、分担者による発表と全体での議論
第4回	文献3の発表と議論	文献3について、分担者による発表と全体での議論
第5回	文献4の発表と議論	文献4について、分担者による発表と全体での議論
第6回	文献5の発表と議論	文献5について、分担者による発表と全体での議論
第7回	グループ研究の概要	各グループの研究内容について概要と経過報告
第8回	個人研究の発表1	個人研究の構想・概要について発表と議論
第9回	個人研究の発表2	個人研究の構想・概要について発表と議論
第10回	個人研究の発表3	個人研究の構想・概要について発表と議論
第11回	個人研究の発表4	個人研究の構想・概要について発表と議論
第12回	グループ研究発表1	グループ研究の発表と議論
第13回	グループ研究発表2	グループ研究の発表と議論
第14回	グループ研究発表3	グループ研究の発表と議論
第15回	春学期の総括	春学期の総括と秋学期の相談

秋学期

回	テーマ	内容
第1回	秋学期イントロダクション	文献の選定、分担者の決定

第2回	グループ研究の準備	国際文化情報学会で発表する内容を相談
第3回	文献6の発表と議論	文献6について、分担者による発表と全体での議論
第4回	文献7の発表と議論	文献7について、分担者による発表と全体での議論
第5回	文献8の発表と議論	文献8について、分担者による発表と全体での議論
第6回	文献9の発表と議論	文献9について、分担者による発表と全体での議論
第7回	文献10の発表と議論	文献10について、分担者による発表と全体での議論
第8回	学会発表の準備1	国際文化情報学会での発表について報告
第9回	学会発表の準備2	国際文化情報学会での発表について報告
第10回	個人研究の発表1	個人研究の構想・概要について発表し、議論する
第11回	個人研究の発表2	個人研究の構想・概要について発表し、議論する
第12回	個人研究の発表3	個人研究の構想・概要について発表し、議論する
第13回	個人研究の発表4	個人研究の構想・概要について発表し、議論する
第14回	文献と個人発表の予備日	時間が足りなかった箇所や関心の高かったテーマを取り上げる
第15回	秋学期の総括	秋学期と年間の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 文献を読み、疑問点、意見を準備しておく。
2. 発表を行うグループは事前に集まって発表のための準備を行う。
3. 個人研究の準備を進める（先行文献の整理、資料収集、調査、等）

【テキスト（教科書）】

初回の授業で相談して決めたい。

【参考書】

平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年。
 テッサ・モーリス＝ズギほか『グローバリゼーションの文化政治』平凡社、2004年。
 レイン・リョウ・ヒラバヤシほか編『日系人とグローバリゼーション』人文書院、2006年。
 マンフレッド・B・ステイガー『グローバリゼーション』岩波書店、2009年。
 平野健一郎ほか編『国際文化関係史研究』東京大学出版会、2013年。
 芝崎厚士『国際関係の思想史』岩波書店、2015年。

【成績評価の方法と基準】

報告・発表・プレゼンテーション 50 %
 平常点・議論への参加 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度のみ担当者変更のためアンケートを実施していません。

管理 ID：
1705252
授業コード：
C1129